

市民検討会議ワークショップで出た主な意見一覧

参考資料1-2

項目	主な意見	川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生	集計
コミュニティ未来	多世代交流、顔の見える関係	○	○	○	○	○	○	○	7
	本、食、健康づくり、スポーツなど、テーマによるつながりづくり	○		○	○	○	○		5
	移住したくなるまち（子どもたちへのふるさとづくり）	○	○		○	○	○		5
	多様な人が住み、社会的マイノリティも安心して暮らせるまち	○	○		○	○	○		5
	地元を知る、好きになることが地域とつながるきっかけになる（シビックプライド）	○	○		○		○	○	5
	自分のリソースや趣味を活かせる	○	○				○	○	4
	若い世代の参加		○	○	○		○		4
	多文化共生	○	○				○		3
	高齢者の活躍	○			○		○		3
	食によるつながりづくり			○	○				2
	行政に頼らない姿勢、新しい公共		○	○					2
あいさつができるまち					○			1	
働く・食・住が完結するまち					○			1	
地域資源と可能性	地域資源の発見・活用・魅力アップ	○	○	○	○	○	○	○	7
	商店街とコラボレーションした取組	○	○	○			○		4
	町内行事の活用			○	○				2
	掲示板の活用			○					1
	子どもに関する取組をキーに地域の人をつなぐ			○					1
	農地を守るしくみ、まちづくりにつなげる取組					○			1
	大学との連携（多摩区）						○		1
しくみづくりとしかけ	参加しやすいゆるやかなコミュニティスペース（小さな単位での居場所）が必要	○	○	○	○	○	○	○	7
	既存施設（こ文、公園、空き家、町内会館、マンションの交流スペースなど）の活用	○	○	○	○	○	○	○	7
	市民活動や企業団体をつなぐ中間支援が必要	○	○	○	○	○	○	○	7
	地域に有償のコーディネーターが必要	○		○	○	○	○	○	6
	情報発信力の強化、SNSなどの活用		○	○		○	○	○	5
	担い手の育成が必要	○	○		○	○		○	5
	市民活動の拠点が必要	○	○			○		○	4
	地域包括ケアシステムの構築	○	○				○		3
	情報の一元化				○		○	○	3
	気軽に行ける・集まれるカフェ			○				○	2
	新しい形の地縁組織へ	○			○				2
	使いやすい資金支援				○			○	2
	緩やかに他の団体とつながる会議	○					○		2
	人材バンクによるセカンドキャリア支援		○					○	2
	困りごとや趣味をキッカケに集まり、できることから始める			○					1
	常に新しい人と出会える交流会			○					1
	まちづくり推進委員の活用			○					1
	〇〇区モデルの創出			○					1
	地域のステークホルダーが集まって、地域課題を協議する場が必要							○	1
	団体を知り、つながる機会としての合同イベントの開催							○	1
	合同事務局機能							○	1
	活動のスタートアップ支援							○	1
	区の独自性を大事に						○		1
その他	地域に働く場が必要				○			○	2
	移動の支援	○						○	2
	買い物が大変					○			1

【その他、個別意見】

- ・区長をコーディネーターに（中原）
- ・有識者会議の内容をもっとオープンに（中原）
- ・区役所から駅前までの坂で流しソーメンをするなどの逆転の発想（宮前）
- ・セレスモスの移動販売を、区内のアスリートが行うビジネスモデル（宮前）
- ・高津住民クラブ（強制加入）（高津）
- ・銭湯をもっとつくろう（高津）
- ・こども文化センターを地域にひらく（多摩）
- ・地域通貨「たま」の活用（多摩）
- ・おせっかいコンシェルジュ（川崎）
- ・ストリートカルチャーの活用（川崎）
- ・認定制度（お墨付き）の導入（幸）
- ・独自条例の制定（中原）
- ・まち全体が家族に（昭和のアニメに出てくるようなまち）（宮前）
- ・クリエイターが空き店舗を借りて地域活性化（宮前）
- ・ゆとりをつなぐヒュッゲ（高津）
- ・区ごとに具体的な中間支援拠点をつくる（多摩）
- ・ゴミが無くなる（資源の活用）（川崎）
- ・川崎区にも夢パークを作ろう（川崎）